

## “戦う姿勢”説き夏1勝

幸福·樋下田宏一監督

「4歳の夏は、胸のひらでキラリと光る思いがわくようになった。今大会出場校の指揮官では最高齢の幸福・橋下田宏一監督。剣部10年目で夏初勝利を飾り、「一つ勝てたことは素晴らしい。選手には感謝しかない」と相好を崩した。



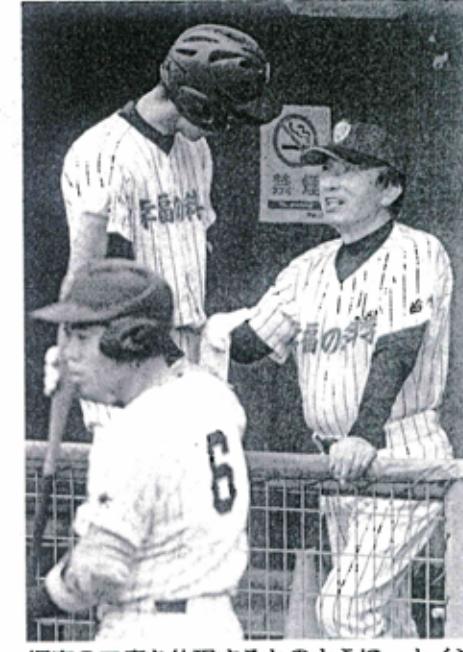
元高校球児だが、中子園の経験はない。矢板高から宇大に進み、最初は中学校で軟式野球を指導した。知り合いの紹介で矢板中央高の監督に就任。県内有数の強豪校にまで育て上げた。

幸福の監督就任は2012年。1線直売に行ってみると、幸運の生徒と変わった約事がきっかけな

るよ」。幸福の生徒と交わした約束がきつかけだった。宇都宮市の自宅から那須町の学校まで片道約70kmを毎日往復。車はわずか2年で駄目になった。今は新幹線で通うが、車中で頭に浮かんでくるのは孫のような選手たちの顔。「ばかかんなと思うほど、いつも野球のことを考えている。だが、体は限界になってきている。昨年12月

「武士は戦いに命を懸けていた。それぐらい、  
たが、体は限界になってしまっている。昨年12月には「腰椎すべり症」の手術をした。ノックも外野まで飛ばなくなってしまった。だが、佐藤玲於主将は「いつも寄り添ってくれる仲間のような存在監督のためにも1勝をしたい」とこの夏に懸けていた。

「武士は敵に命を懸けないと、それでしか勝てない。の気持ちでやらないと、うちは勝てない」。指



選手に声を掛ける幸福の様子田監督。どんなときも戦う気持ちの大切さを説いた! 横木市営、橋本裕太撮影

捕手の口癖を体現するかのように、ノックは決意むき出しのプレーで夏の初勝利を飾った。だが、この日は焦りから「らしさ」を出せなかつた。攻守交代のたびにダッグアウトで声を掛け続けたが、2勝目はお預けとなつた。

5人の3年生が抜け、9人で活動を再開する。

「来年は二つ勝ちたいですね」。白球に懸ける情熱はまだまだ冷めない。(野中美徳)

# 右橋 中盤突き放す

庄盤のミスに反省

点で七回コールド勝ちを逃す。1点を追う三回に瀕死の2点適時打で逆転四、五回も着実に加点本塁打などを5点を挙げ、勝負を決めた。幸運は一回に柴田のスクイークで先制するも、守備が失敗せず大事失点を許さず、大差失点を許さない。

福  
010010  
315×0  
112

幸福守備甜れ1失点

ただけ。バットを  
ぬもなかつた」と  
かめた。

10

らに攻撃も  
す悪循環。一  
が効いたの  
は相手の

逸機を操り、  
指揮官の叱咤  
か、中盤以  
スにつけ込

返咲降ん

・柴田皓生  
回に先制の  
め) 「監督」

(2年)  
イン  
スクイ  
からサ  
決め  
今後

「が出てやる」と  
は夏一勝

「確実に  
思った。  
ひた先輩を

戦の壁は高  
が焦つてい  
イスしたり  
笑顔にしよ